

## “ Coffee break Talk. 5 正月にゴッホ ”

支部長 今林 光秀

JSCA 九州支部の皆様、新年あけましておめでとうございます。  
Coffee break Talk.も 5 回目となりました。まじめな新年挨拶は  
メール版新春号に譲るとして、いつものようにここはゆる〜い  
感じで気ままに書いてみようと思います。

1月2日に福岡市美術館へ「ゴッホ展」を見に行きました。  
日本の正月に西洋絵画のゴッホ？と思われるかもしれませんが、  
ゴッホは日本を愛し日本に憧れた画家でした。19世紀後半頃の  
ジャポニズム(日本ブーム)が印象派やアール・ヌーヴォーなど  
に大きな影響を与えたことは知られていますが、ジャポニズム  
の筆頭がゴッホであり、日本の浮世絵に衝撃を受け完全に惚れ込んでしまったそうです。



以前の私は“ゴッホって有名だけど激しくてとっつき難いなあ”と思いついていましたが、  
2019年アムステルダムゴッホ美術館で「ひまわり」を直に見て変わりました。凡人の勝手  
な印象で「上手じゃないなあ(オレでも書けそう)、でもなんか熱いよなあ！」と親近感を  
覚えました。フェルメールの静謐な美も好きですが、ゴッホの感情を吐き出すような躍動感  
ある絵も人間味あふれて面白いなど。そして原田マハさんの小説「たゆたえども沈まず」を  
一昨年読んで以来、ゴッホをさらに身近に感じるようになりました。

### ▲ “ 糸杉 ”

ゴッホの代表作「ひまわり」は理想郷を求めて移り住んだ南仏アルルの太陽や夢を象徴と  
した作品群ですが、その後のサン=レミ時代は“糸杉”をモチーフにした絵を描いています。  
今回の出展「夜のプロヴァンスの田舎道」(上右写真)にも“糸杉”が見事に描かれていました。  
炎のようにうねりそびえ立つ“糸杉”の暗い色調ながら盛り上がる絵の具の力強い筆感から、  
その時期の自身の精神への不安とそれに負けない孤高の意志の強さを訴えてもいるようで、  
ゴッホを応援したい気になりました。一方、「サン=レミの療養院の庭」は木々の緑と素敵  
な色遣いが迫ってくる絵で、ゴッホの美意識を感じました。絵は素人の私にそんなひと時を  
与えてくれたゴッホの絵を実際に見て感じることで、改めてリアルの良さを体感するこ  
うことができました。いつか“糸杉”の傑作「星月夜 (MoMA/ New York)」も見に行きたいです。

### ■ “ 美術～建築～構造 ”

絵をただ見るだけでなく画家の想いや時代背景なども考えると、  
より名画に親しめると思います。「美術の物語」という本を読むと、  
年代毎に時代背景と建築を解説した上で名画について述べています。  
そうか建築も美術なのですね。建築を構成する構造にかかわる人間  
として、嬉しいような目を覚まされるような想いになりました。

< 2022年1月3日 正月は餅とCoffeeも美味しい! >



[分厚い本 美術の物語]